

【 身近な草・木・花 7月 】

**エンジュ** マメ科、落葉高木、花期；7~8月

場所；わが団地と鶴牧東公園の間の遊歩道沿いに植えられています。

中国原産の高木で、丈夫で大気汚染にも強いことから、古くから庭木や街路樹として植えられる。また、中国では縁起の良い木ともされ、枝いっぱい白い花を咲かせる姿は上品な感じもします。そして、7月下旬から8月初めにかけては、路面が白くなるほどの落花も見事です。



(上左) エンジュの花 (15 7/27)

(上右) 枝いっぱいの開花 (15 7/27)

(下左) みごとな落花 (13 7/23)

(下右) エンジュの実、これもマメ科の特徴 (13 9/27)

ところでエンジュはマメ科の植物です。ここでマメ科の花を見てみましょう。



カラスノエンドウ (15 3/29)



フジ (14 4/24)



シロツメグサ (15 5/14)

カラスノエンドウは野草、フジはつる性の木、そしてエンジュは高木。これらはすべてマメ科で蝶型花をつけています。実はシロツメグサ（クローバー）も蝶型花が集合した花で、これも同じマメ科なのです。ぜひルーペで観察してみてください。

**マンリョウ** ヤブコウジ科、常緑小低木 花期；7~8月 果実；11~4月頃 場所；居住区、法面の随所

正月の縁起木として赤い実をたわわにつけるマンリョウは誰でも知っていますが、そのマンリョウが夏に、こんな地味な花を咲かせている事はあまり知られていません。

わが団地には、このマンリョウが居住区にも法面にもたくさん生えています。時にはマンリョウの花を見に行ってください。見ごろは7月下旬から8月上旬です。ただし、藪蚊が多い時期なので、虫よけスプレーやムヒなどで対策が必要です。



マンリョウの花 (15 7/20 6号棟前)

小さな枝いっぱいにつけて (15 7/20 同)

**ヒメヒオウギズイセン**（姫檜扇水仙） アヤメ科 花期；7~8月

場所；中央広場、10号棟北側法面など

写真を撮りながら法面を巡ってきて、10号棟の北側でこの花と出会うと「ああ、もう夏なんだ」と思う。真っ赤という訳ではないが、鮮やかなオレンジ、まさに火の燃えさかる色。なんせ「緋扇」だものな。ひとり勝手な思いを巡らす。



火が燃え盛るようなヒメヒオウギズイセン(左)。10号棟北側法面に生える(右) (13 7/6)

いや、実は「緋扇」ではなく「檜扇」。そこに色はない！「姫檜扇水仙」と書けば、日本古来の野草のようにも思えるが、それも違う。南アフリカ原産のヒオウギズイセンとヒメトウショウブから、フランスで交雑により作られた園芸品種とのこと、

では原種にさかのぼって、「ヒオウギズイセン」や「ヒメトウショウブ」をネットで検索しても、ヒメヒオウギズイセンが出てくるだけで、さっぱりその正体が分からない。

ま、日本には明治中期に渡来し、持ち前の繁殖力旺盛な性質から、花壇から飛び出し野生化した花ということで、あるがままを受け入れるしかない。

[http://annabelle.at.webry.info/200707/article\\_11.html](http://annabelle.at.webry.info/200707/article_11.html)

このホームページの記事は、通り一遍の記事ではなく、記事作成者が調べた経緯が記されています。

**ヒルガオ** ヒルガオ科 花期；6～8月

場所；団地内では北側駐車場緑化ブロックの上など、あるいは団地周辺のやぶの中に見られる。

名は花が昼間咲くことによる。日当たりのよい野原や道ばたなどに生えるつる性の多年草。

薄いピンクの花は清楚な感じですがすがしいが、アサガオの陰に隠れて顧みられることは少ない。

しかし、ヒルガオは日本古来の野草で、万葉集で容花(かおばな)と歌われていたのはこのヒルガオの方(異説あり)。アサガオが日本にもたらされたのは遣唐使の頃、そして江戸時代には一大ブームを巻き起こすまでに、アサガオの人気は急上昇した。

現在も7月初めには各地で朝顔市が催されるが、ヒルガオ市は催されることはない。アサガオに比べ決して見劣りのする花ではないと思うのは私だけか？でも一言付け加えれば、分類上は、アサガオもヒルガオも“ヒルガオ科”なのです。



ススキにからまるヒルガオ (16 7/5)

**アガパンサス** ユリ科 3号棟北側

南アフリカ原産の多年草で、6月末から7月にかけて、さわやかな清涼感のある花を多数咲かせる。



アガパンサスの花 (14 7/15)



3号棟北側のアガパンサス (15 7/2)

(参考書)

『身近な雑草の愉快的な生きかた』 稲垣栄洋著 ちくま文庫

(文・写真；I)